



広報

# 中部の森林



林野庁  
中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5  
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



左から新島局長、阿部代表取締役社長、村松代表理事会長

## 木づかいシンポジウムで鼎談(3人での懇談会)

「新たな森林・林業基本計画が目指すもの」と題して!

主な項目	○ 木づかい推進月間協賛シンポジウム開催 .....	P2
	○ 各地からのたより .....	P7
	○ シリーズ「森林官からの便り」 .....	P11
	○ シリーズ「ご当地自慢」 .....	P12

**関係者のマッチング・協力が重要  
木づかい推進月間  
協賛シンポジウム開催**

「名古屋事務所」毎年十月は「木づかい推進月間」として国産材の利用拡大に向け各地で多彩なイベントが催されていますが、「熱田白鳥の歴史館」では、十月十三日、(一社) 森林・自然環境技術者教育会 (JAFEE) が主催する研修として同月間に協賛したシンポジウムが開催されました。

この催しは、JAFEEの構成団体である(一社)名古屋林業土木協会が企画・運営し、同月間の趣旨に沿うものであることから、中部森林管理局は全面的に後援し、会場の設営、新島俊哉局長が講演及び鼎談のとりまとめ役を担うなど局を挙げて協力することにより、シンポジウムが盛会裏に催されました。

当日はJAFEE会員のほか県職員や一般募集した市民、スタッフを含めて一三十名が参加され、第一部の講演では、新島局長から「新たな森林・林業基本計画が目指すもの」と題して、森林が公共財であることを踏まえ「今後主伐が増える中、A材利用の拡大が課題」と話され、川上、川中、川下のマッチングとコスト削減の必要性、そのことが地方創生に結びつくとして話されました。

二人目の講師、愛知県森林組合連合会



シンポジウム会場の様子

村松幹彦代表理事会長からは「地方創生、林業の成長産業化に向けた山側の課題」と題して、六十年育てた木が六十万円/鈴しか山主に還元できない実態に触れ、「百万円は再造林に回してもらいたい二百万円/鈴を山主に還元できるのが目標」と話され、そのためには木に関わるみんながパートナーと思ってやっていくことの必要性を話されました。

また、阿部建設株式会社 阿部一雄代表取締役社長からは「国産材の利用拡大に向けて、木造軸組工法+CLT (Aパネ工法)」と題して、CLTを一般住宅や非住宅への導入事例を紹介されると

もに、大工さんの現状や、建設業の立場として「施工さんからは少しでも安く、山側からは少しでも高くの板挟み。国産材をもっと使うには関係者が一緒に盛り上げる必要がある」と話されました。



「山主に還元するには！」鼎談の様子

講演に続く第二部として、講師三人による「山主にいかに多く還元するか！」をキーワードとした鼎談を新島局長が取りまとめ役となつて進められ、「森林・林業・木材産業とよく言うが林業と木材産業は一体のようで相反する面がある。そこを『地域の振興』をキーワードとし、山主にいかに多く還元できるかを共通課題として関係者がいかに連携していくかが重要」と結ばれました。

参加された方からは「盛りだくさんの話を聞くことができた」「講師との距離

感がなくてよかった」「木に包まれた会場でよかった」などの感想が聞かれたほか、木材関係業界の新聞にも大きく報道されるなど、木づかい推進月間の取り組みとともに、地域や関係団体と協働して行事を行うことで意義のある催しとなりました。

**金曜会が国有林を視察**

「総務課 広報」十月十二日、金曜会(長野市所在報道機関の幹部会)の国有林視察を東信森林管理署管内で「信州カラマツを訪ねて」をテーマに行い、カラマツの保護や種子の生産から製材品の利用までの一連の流れを視察しました。

当日は、金曜会から五名が参加され、森林管理局からは局長、総務課長、広報主任官が同行しました。

中部森林管理局とJR長野駅で、貸切バスに乗車、日程と時間の有効活用から車中で開会式を行いました。まず、開会挨拶を新島局長から行い、次に油井総務課長より中部局の管内概要を説明。その後、新島局長より国有林全体のこれまでの歴史や中部局の取り組みと今回の視察目的について説明しました。佐久ICで東信署の松井署長が合流し、バスの中で東信署管内概要の説明の後、最初の視察地「最古のカラマツ植物群落保護林」(カラマツの保護)に到着しました。その後、「清万採種園」(カラマツの育種)、



清万採種園で採種木等の説明



最古のカラマツ植物群落保護林の説明

「森林環境保全整備事業地（間伐請負箇所）（カラマツの生産）の作業状況を視察しました。」



東信木材センター場内を視察

また、午後から東信地域最大のカラマツ市場である「東信木材センター」（カラマツの流通）を、「齋藤木材工業（株）」（カラマツの加工）では燃エンウッドなどについて会社の方から説明を受けながら工場内を案内していただき、公共建築物への利用として「長和町のながと保育



高性能林業機械（ハーベスター）で伐採の様子

園」（カラマツの利用）を見学し、一連の視察を終えました。金曜会の方々より、バスの車中も含め



ながと保育園の遊戯室を視察



齋藤木材工業で「燃エンウッド」説明の様子

### 木曽生物群集保護林の復元の取り組み

【計画課】中部森林管理局では、保護・管理し、森林生態系からなる自然環境の維持、森林施業・管理技術の発展、学術の研究等のため、平成二十八年四月に木曾地域固有の生物群集であるヒノキ等で構成される温帯性針葉樹林を「木曽生物群集保護林」（二〇、三九二畝）に設定し

その場その場で活発な質問があり、カラマツ林が種子から生まれ公共施設等に使用されるまでの流れや、そこに携わる人たちの営みに大変興味をひかれたと話していただきました。

最後に帰途のバスで、新島局長より「早朝から視察ありがとうございました。視察箇所を欲張り過密スケジュールになってしまい申し訳ありませんでしたが、流れはご理解いただけたと思います。今後、信州カラマツのブランド化を図り、カラマツの評価を高めることによりできるだけ多くの資金を山へ還元したい。そのためには、地域で「生きる」ということを認識し地域を振興していくという視点で林業と木材産業が連携していくことが必要と考えています。金曜会のみなさまには今後も中部森林管理局の業務に対してご理解ご協力をお願いしたい。」と閉会の挨拶をし、十九時頃JR長野駅で解散となりました。濃密で充実した国有林視察の一日となりました。

園」（カラマツの利用）を見学し、一連の視察を終えました。金曜会の方々より、バスの車中も含め

ています。

「木曽生物群集保護林」の区域内にある人工林については、長期にわたる森林施業等を通じて、もとの温帯性針葉樹林へ誘導していこうという「復元」に取り組むこととしています。

このため、森林・林業や自然環境の専門家からなる保護林管理委員会木曽生物群集保護林部会が、十月十八日に中部森林管理局で開催され、「復元」のための施業方法等について検討されました。なお、この復元部会の各委員は、「木曽悠久の森」管理委員会植生管理専門部会の委員も兼ねています。

復元部会では、「早期に復元を図る必要のある区域と、それ以外の区域に分けて施業方法等を検討した方がよい」、「最終的な目標林型のみでなく、

『復元』過程の段階的な目標林型も設定した方がよい」、

「優良ヒノキ林の生産も期待できるような森林は、通常の施業方法を基本としてよい」、「モニタリングでは天然更新状況に



保護林管理委員会の様子

に加え、上木の推移も調べた方がよい」などの意見が出されました。

引き続き復元部会で検討を重ね、来年には「木曽生物群集保護林復元計画」を作成する予定です。

**木材利用の促進と二ホンジカ被害対策を紹介  
東海農政局「消費者の部屋」へ特別展示**

「名古屋事務所」十月三日から十三日の間、東海農政局「消費者の部屋」へ特別出展しました。

「消費者の部屋」は、情報発信の場として、様々な行政機関等が期間毎にテーマを設定し取り組みを紹介しています。

今回、中部森林管理局は、「木材の利用促進と二ホンジカ被害対策」をテーマに日本の森林・林業の現状、木材利用の意義や木材利用の取り組み事例のほか、近年、生息域が拡大し森林帯や貴重な高山植物の被害など、森林被害を与えている



東海農政局「消費者の部屋」の特別展示



名古屋市栄「オアシス21」での出向展示

る二ホンジカの被害防止対策の取り組みなどをパネル類で紹介するとともに、木製品や木のおもちゃ、実際に二ホンジカ捕獲の際に使用している等身大模型(デコイ)、センサーカメラ、くくり罠などの資材を出展しました。

また、特別展示終了後の十五日には、毎月第一、三土曜日に開催される中区栄の「オアシス21オーガニックファーマーズ朝市村」において、今回の出展品の中から各種パネル類、木のおもちゃ、デコイ、センサーカメラなどを出向展示しました。

多くの見学者はデコイや木のおもちゃに足を止め、熱心に説明を聞いたり、実際に触って遊ぶ様子も見受けられました。

少しでも多くの方に足を止めていただくよう、目にとまりやすいデコイ、木のおもちゃなどを展示したことで、国有林の業務に触れていただくことができ、大変有意義な特別展示となったと感じています。

なお、現在、「熱田白鳥の歴史館」では、展示コーナーの一角に、東海農政局の取り組みを紹介するコーナーを十一月三十日まで開設しており、二〇一〇年に開催されたCOP10、MOP5で展示された棚田など山村風景の精巧なジオラマや、農政局の取り組みなどを紹介したパネル展示を行っています。

今後も各関係機関と連携をとりつつ情報発信に努めていく考えです。

**「消費者の部屋」**

<http://www.nraff.go.jp/tokai/shouhi/saikatsu/kyou/index.html>

**公共建築物等への木材利用を！  
河村名古屋市長らへ木材利用促進要望**

「名古屋事務所」十月十九日に愛知県木材利用推進協議会（鈴木和雄会長）が名古屋市と名古屋市議会へ木材利用促進に関する要請活動を行いました。

今回は、日程の都合上二回に分けての要請行動となり、一回目は十月五日に愛知県、東海農政局などへ、そして今回が二回目の要請行動となりました。中部森林管理局名古屋事務所からもオブザー

バーとして参加しました。

要望書は、協議会の鈴木会長から河村名古屋市長及び加藤一登市議会議長へそれぞれ手渡され、木材利用推進に関する要望が行われました。

名古屋市長及び名古屋市議会への主要要望内容として、

- 一、市が整備する公共施設、公共工事における愛知県産木材を始めとする木材利用の推進
- 二、公共工事などでの木材の積極的な利用の推進
- 三、アジア大会関連施設整備における木造・木製品の採用
- 四、名古屋城天守閣の木造化の推進

などについて要請されました。

要望書手交後、河村名古屋市長からは、過去の小学校の木造化で、木造化の建築見積もりが高額であったことに触れ



河村名古屋市長へ要望書を手交

つつも、木材利用には積極的な姿勢が示されました。

市長からは木材利用推進にからめて、現在、名古屋市において協議を進めている名古屋城天守閣木造復元構想での木材利用について熱く語られました。

また、名古屋市議会・加藤一登市議会議長からは、木材ができるまでの過程や木材にたずさわる職人などの将来的な後継者への関心も示されつつ、協議会の要請である木材利用に関して理解が示されていました。

名古屋事務所としては、今後も山側・国有林からの安定供給等をする立場から川中・川下の意向をとらえつつ、こうした活動の後方支援に努めていきたいと考えています。

県庁舎の整備に木を積極的に使って！

岐阜県知事らに木材利用推進を要望

「名古屋事務所」木づかい推進月間中の十月二十一日、岐阜県木材利用推進協議会（後藤直剛会長）から岐阜県に対する木材の利用推進に関する要望活動が実施されました。中部局はこの取り組みにオプザーバーとして協力し、名古屋事務所からも木村所長ら三名が参加しました。

古田県知事や県議会、林政部など主要部局に対し手渡した要望書には、県庁舎再整備（建て替え）へ積極的な県産材活用、東京オリンピック・パラリンピック



古田岐阜県知事（左）に要望書を渡す後藤会長

関連施設への県産材活用、住居や公共建築物、公共土木工事における木材利用促進、木造住宅の建設促進に向けた支援強化、未利用材の利用を図るための木質バイオマスエネルギー施策の強化、木材の利用分野拡大に係る技術開発など県政の案件へ木材の利用推進に関する要望項目が盛り込まれていました。

特に岐阜県庁舎の木材利用に関しては「岐阜県庁舎再整備構想」が公表されたことも踏まえ、岐阜県木材協同組合連合会が開発した柱を使わず大空間を施工できるトラス構造の模型を知事に見せながら具体的な木材利用を要請しました。

古田知事との意見交換では、知事から「百年先の森づくりを柱とした第三期基本計画がまとまったところだが、安定供給体制の確立が重要と考えている。第二期計画に引き続き積極的に取り組んでいきたいと考えており、貴団体の皆さんに

も色々な面でご尽力いただきたい」との話がありました。

また、個々要望内容について、知事からは「県庁舎についても今後具体的な話に移った場合はどこにどのように使用できるか検討していきたい。オリンピック関連施設に関わらず色々な国際大会に応じた合宿施設などに木材の利用ができないか検討したい」など積極的な利用に取り組んでいきたいとの表明がなされました。

この前段で行われた林政部長等への要請の中では、林政部長からは人工林の再造林に対する補助率を上げることや新規利用開発に対する取り組み姿勢について説明があり、公共施設関連では警察の駐



岐阜県林政部長等へ要請の様子

在所などで木造化が積極的に取り組まれているとの報告なども受けました。

参加した協議会メンバーからはそれぞれの立場から獣害対策の強化や森林環境税の有効利用、県単位を越えた流域としての森づくりと負担のあり方などについて活発に意見・要望が出されていました。

昨年開催された全国育樹祭を契機に県民の森林・林産業への理解も深まっております、この要請活動を機会として岐阜県の林業関連産業が益々活性化することに期待したいものです。

### 森林総合監理士等連携会議を開催

「技術普及課、東濃署」中部森林管理局では、森林総合監理士育成のため中部ブロック各県を対象に育成研修を実施しており、この中から多くの方が森林総合監理士の資格を取得して活動しています。このことから、森林総合監理士や研修受講生等の技術の習得、他地域との情報交換による資質の向上等のフォローアップを図る目的として、中部ブロック森林総合監理士等連携会議を開催しています。

今年度は岐阜県との共催により、中部ブロック四県の民有林関係者十九名、中部森林管理局職員十九名参加のもと十月六日から七日の二日間にわたり、岐阜県恵那市で会議を開催しました。

今回は、森林・林業の再生及び林業の



現地検討会の参加者

成長産業化を図るためには、生産性の向上や合理化・低コスト化が国民共通の課題となっていることから「木材生産性の向上」をテーマとして企画しました。

一日目の全体会議では、中部森林管理局担当者から平成二十六年度から取り組んでいる生産性向上実現プログラムの目的・効果の説明や中部圏の木材需要動向の説明、岐阜県担当者からは次世代型林業架線技術の普及のために昨年度購入した最新型タワーヤーダ（タワーヤーダ）の導入経緯や、今後の普及等について説明がありました。

また、岐阜県森林組合連合会東濃支所長代理から、木材生産の経験がほとんど

無かった技術者及び関係する事業体自らから指導していく中で、岐阜県トップクラスの生産性を確保するまでに成長した事例について説明があり、現場で従事する作業員の意識を変えていくことや、人材育成が重要であるとのアドバイスがありました。

二日目は、東濃森林管理署明知国有林の皆伐作業地において現地検討会を開催し、東濃署より作業仕組や木材の販売方法等の説明、岐阜県から実際に現地で使用されている岐阜県が導入したタワーヤーダの説明がありました。タワーヤーダについては、機械の構造やタワーヤーダ用搬器などを間近に確認することができました。

二日間を通して参加者からは、「生産性向上の取り組みを現場での意識啓発に活用していきたい。」「他県や国有林の情報を得られて有意義な機会であった。」「などの意見が聞かれ、参加した者同士の情報交換、技術・知識の共有の良い機会となりました。



「木曾森林ふれあい推進センター」十月十四日・十五日の二日間諏訪郡下諏訪町において「森林ボランティア・NPO連携推進会議」を開催しました。

この会議は、中部森林管理局管内で活



遺跡で説明を受ける参加者

動する森林ボランティア団体やNPO法人との交流促進及び情報交換や相互研鑽を行うことで、ボランティア団体等の更なる資質の向上を図るとともに、広く一般市民の皆さんに対し国民参加の森林づくりへの理解や、森林環境教育の重要性をPRすることを目的に開催したもので、十団体と局署職員併せて五十五名が参加しました。

一日目は、開会式終了後、南信森林管理署管内の東侯国有林内にある国指定遺跡の「星ヶ塔黒曜石原産地遺跡」に移動し、下諏訪町立諏訪湖博物館館長の宮坂清氏から、発掘の苦労話や縄文時代の発掘・運搬の方法等をわかりやすくユーモアあふれる説明に聞き入り、なかなか見られない場所に興味津々でした。



木工細工に挑戦中の親子

その後、南信署谷澤森林技術指導官から「ニホンジカの食害対策の取り組み」についてペーパーを紙芝居風にした説明や、くくりワナの設置の方法の実演に参加者は聞き入っていました

その後、二日目の会場となる、あすなろ公園に移動し、それぞれ十箇所に分かれ、ワークショップの各ブースで、翌日の打合せを行いました。

二日目は、「森林は友だち、森に入ろう」をテーマに、「森・ふれあいフェスタ」を開催しました。

爽やかな秋晴れの下、大勢の親子連れが会場に訪れ、木製のパーツを組み立てるミニイス作りや、竹とんぼ作り、木工細工などのブースに人気がありました。土からできた不思議な絵の具を使ったドブアートや、青竹を使ったパン作りなど、様々な体験も楽しめました。

また、下諏訪町のゆるキャラ「やしまる」と「万治くん」の登場で会場はさら



「万治くん」とはいポーズ！

に盛り上がり、「楽しかった」「また参加したい」との声が聞かれ、延べ千名の参加者に木や自然素材の数々と触れあえる機会をつくることができました。

参加した局署の職員も、様々なNPO団体等と接する機会となり、二日間を通して充実した連携・交流の場となりました。

### 各地からのたより

#### 国有林見学バスツアーを開催

【岐阜署】十月二十二日に岐阜署、地域のNPO法人及び旅行者の共催で、山の日制定記念「御嶽の自然と江戸時代のヒノキを見に行こう」と題して、国有林見学バスツアーを開催しました。

当日は天気恵まれ、下呂市内の国有



参加者の皆さんと記念撮影

林である、赤沼田天保林（江戸時代に植えられた国内でも例の少ないヒノキ人工林）と、御嶽自然休養林（御嶽山麓の自然林）を案内しながら森林の役割や大切



現地案内の様子

さ、火山の説明などを行いました。

開催には昨年度の反省を踏まえて広報活動を強化し、テレビ、ラジオ、新聞、市広報、生活情報誌、チラシ配布などを行いました。申し込みは定員を超過するほど好評で、イベントを何で知ったかの問いには、局と署のHPが一番多く、続いて新聞、ラジオ、テレビの順でした。局や署のHPは見ている人が多く、重要な広報媒体であることがわかりました。

定員二十名の平均年齢は五十三歳。居住地は飛騨地方五名、美濃地方十名、愛知県（尾張地方、名古屋市）五名でした。

バスの車中で、国有林、林野庁及び森林管理署の説明を行いました。参加者募集のチラシにも記載しましたが、国有林の存在や森林管理署の知名度向上を図ることもイベントの目的の一つです。参加者からは満足、次回も参加したいと高い評価をいただきました。

下流域の人たちにもっと森林の役割や大切さを伝えるため、飛騨川、木曾川の下流域である愛知県（尾張地方、名古屋市）への広報の強化が、今後の課題です。

#### 公共施設の確認に関する

##### 下呂市との協定を締結

【岐阜署】十月二十七日、下呂市と公共施設の確認に関する協定を締結しました。



藤村岐阜署長（左）と服部下呂市長

冒頭「下呂市の市道や水路、看板等の公共施設は山間地にも点在し、その一部は国有林野に所在または隣接している。森林管理署の職員は通常業務のなかで、これらの施設に異常を発見した場合には、速やかに下呂市に報告すること、施設管理に協力する内容」といった趣旨説明のあと、下呂市長から、「本市は、92%が森林で、そのうち29%にあたる二万三千鈔を国有林が占めている。国有林を管理する森林管理署とは密接な関係にあり、協定締結によりさらに連携を深めていきたい」とあいさつがありました。

続いて、藤村署長から、「職員が現地へ赴いた際、施設に異常があれば市に報告することで市に協力するとともに、これを機に、地域の一員としての意識をさらに高めたい」とあいさつ、その後、双方で協定書に署名し、協定が成立、最後に固い握手で連携を確認しました。



除伐鎌の使用方法の講習

**二十八年度  
インターンシップを実施**

「北信署」農林水産省就業体験（インターンシップ）を九月五日〜九日までの五日間の日程で実施しました。

今回、当署では岐阜県立森林文化アカデミー（森と木のエンジニア科）一学年生二名を受け入れました。

研修内容は座学以外のより具体性がある森林官の実務ガイドを基に、現場での実践的な業務を中心とした即戦力を養えるカリキュラムにしました。

署長室で開講式終了後、安全指導、当署管内の概要説明等を行い、早速、近隣の国有林内の現場に出て現地実習を行いました。

現場では、貸付地の現地確認、第一境界標の巡検、トータルステーションの取扱、造林事業における監督・検査等補助業務（功程調査等）、除伐鎌を使用しでの作業、ポケットコンパスでの収穫調査箇所の周囲測量及び輪尺を使用しての毎木調査、製品生産事業の監督補助（検査等）、素材検知、高性能林業機械の見学、治山・林道での監督補助業務及び治山現場でのコンクリート谷止工（間伐材使用）、林業専用道新設工事の見学、野生鳥獣被害対策、保護林（戸隠森林植物園内）での植物保護パトロール等多岐にわたる業務を体験しました。

折しも、台風十二・十三号の接近により現場での実践的な業務が中心のカリ



ポケットコンパスで測量中



高性能林業機械ハーベスターと記念写真

キュラムであっただけに天候が心配されましたが、幸い雨に降られることもなく、全てのカリキュラムを無事終了することができました。事業の段取り上、生産現場での高性能林業機械・北欧製のホイール型ハーベスター（SAMPO）、フォワダ（VIMEK・F801）が実際に作業する様子を見ることはできませんでしたが、実物の機械を目の当たりにした研修生は、その大きさや機能に驚いていました。

インターンシップ終了後、研修生からは「普段学校では習う内容とは全く違った現場での実践的な実習内容が多く、今後の進路において大変参考になった。」、「森林管理署の予想以上に幅広い業務内容に驚いた。森林・林業や治山事業等に



対する意識がより一層高まり、理解を深めることができた。」「忙しい業務の中で準備を始め熱心な講義をしていただき、有意義な時間となったことに感謝します。」等の感想が寄せられました。今回は、同じ学校の同級生2名の受け入れであったことから、二人の息も合っており、益々連帯感も醸成されたようでした。

指導した職員からは、「高校・アカデミーと森林・林業を勉強していることから基礎ができており、教える側としてもモチベーションが上がり有意義だった。」との報告もあり、短い期間ではありましたが、学生・職員とも貴重な経験でした。

### 軽井沢中学二年生を対象に「職場体験学習」を実施

【東信署】十月十二日・十三日の二日間「軽井沢町の軽井沢中学校二年生の生徒三名を対象に「職場体験学習」を実施しました。

十二日は、午前中軽井沢森林事務所にて東信森林管理署、軽井沢森林事務所の管内概要及び森林官の仕事、図面の見方について説明、その後場所を千ヶ滝入り口に移し立木の調査の仕方を体験しました。午後からも同所でヒノキの枝打ちを体験し、生徒はなれない手つきでノコギリを使用し枝打ちの目的、効用、実施時期等を聞きながら汗を流しました。



枝打ち体験中、カメラ目線で！

二日目は、鬼押し出し付近の境界巡検を体験し、この作業の目的を聞きながらなれない作業でしたが、午前中の終了間際になるとすこしは慣れて作業が進んでいきました。軽井沢ということで、境界付近まで別荘等が入り込んでおり特に周囲に気を配りながら作業をしていることも理解されました。午後からは、生産請負事業で実行している保育間伐活用型を見学しました。特に重機（ハーベスター）の作業で、立木を伐採し、枝払い、玉切、さらに材の集積作業を一貫して行う機械には生徒達は特に興味を示し運転手の方に質問を投げかけていました。二日間を通して「是非おじさん達といっしょに将来仕事がしたい」との声も聞かれ大変有意義な二日間でした。

### 昼間のパパはちよつとちがう 家族参観日を開催

#### 「木曾署」十月二十三日、木曾協和産業株式会社（木曾郡上松町）は生産現場で働くお父さんの家族参観日を当署管内の製品生産事業地（木曾郡木祖村）で開催しました。

これは、家族に自分の働く現場を見てもらい、林業への理解と安全意識を高められるよう木曾協和産業が開催したものです。

当日は、お父さんたちが作業する中、奥さん四名、子供さん六名が作業を見学しました。



架線集材作業を見学

間伐という作業の説明後、伐採（チェーンソー）、造材（プロセッサ）、集材（架線、スイングヤーダ）の搬出間



お父さんの姿を「パシャ」

伐の一連の作業を実演しました。なかなか家族に働く姿を見せる機会のないお父さんたちは、準備体操を入念に行い、打ち合わせや指差呼称など緊張しながらも普段と違うお父さんを家族に見せようと張り切って作業を行っていました。

当日家族に配布された資料にも、いつものような作業を行っているのかなど作業内容をわかりやすく記載し、「安全のために行くこと」については、「日々、作業を安全に進めるために日頃から危険要因を見つけ、安全対策を行います。また不測の事態に対応できるように緊急連絡体制を確立し、現場に掲示し、現場に従事する皆さんが安心して作業が行える環境づくりが心がけています。」とし、自

身の安全への再確認と、危険な林業現場での安全対策を家族に説明しました。

見学を終えた家族からは、「今までで一番パパがカッコよく見えた。」「もうちょっとがんばってほしかったな！でも、一応がんばっていた。」「今まで現場を見たことがなかったので大変な仕事だと思いました。」「危険な部分もある仕事、いつもチャラチャラしているけれど、夫の真剣な姿が見られました。」などの感想が聞かれました。

このような見学会をきっかけに安全意识が高まることを期待するとともに、いつもと違うお父さんの姿を見せることができ、家族の見目も違ってくるかもしれません。

見学会の後には家族参加の懇親会も行われたそうです。いつも飲んでいられるビールも一段とおいしく飲めたのではないのでしょうか。

**職場見学の感想**

23日(日)の職場見学に招待して下さりありがとうございました。職場見学は初めてで、緊張しながら行ってきました。朝早くから職場の雰囲気を味わうことができて良かったです。仕事の内容や作業の様子を詳しく説明していただき、ありがとうございました。また、安全対策についても説明をいただきました。家族と一緒に職場を見学することができて、とても貴重な体験になりました。ありがとうございました。また、安全対策についても説明をいただきました。家族と一緒に職場を見学することができて、とても貴重な体験になりました。ありがとうございました。

**子供の感想文**

23日(日)の職場見学に招待して下さりありがとうございました。職場見学は初めてで、緊張しながら行ってきました。朝早くから職場の雰囲気を味わうことができて良かったです。仕事の内容や作業の様子を詳しく説明していただき、ありがとうございました。また、安全対策についても説明をいただきました。家族と一緒に職場を見学することができて、とても貴重な体験になりました。ありがとうございました。また、安全対策についても説明をいただきました。家族と一緒に職場を見学することができて、とても貴重な体験になりました。ありがとうございました。

松本 勇介

### 認知症男性の保護に協力

事務委託職員 村仲徹さん

【木曽署】十一月七日、認知症で徘徊していた上松町の八十代男性の保護に協力したとして、木曽森林管理署事務委託職員の村仲徹さんが木曽警察署から感謝状を贈られました。

十月二十四日午後、仕事の帰りに町道を車で行っていたところ、交差点付近で人だかりが。自宅のすぐ近くだったため一旦帰宅した後、犬の散歩がてら目撃地へ。するとベンチに座った老人に数名の会社員が付き添って話しかけていました。認知症らしく要領を得ない老人の顔をよく見ると、なんと知り合い。ちょうど警察も駆けつけ、身元判明に協力したとして、上松電子の職員と共に今回の荣誉となりました。

村仲さんは感謝状を手に「人助けができて嬉しい」と頬をほころばせました。



感謝状と村仲さん署玄関で記念写真

### 岐阜労働局新任労働基準監督官の現地訓練受け入れ

【岐阜署、森林技術・支援センター】岐阜労働局から、新任の労働基準監督官の現地訓練として、林業の現地を勉強させてほしいとの協力依頼があり、十一月八日、五名の訓練生を受け入れ実施しました。

最初に森林技術・支援センターにて三村森林技術普及専門家から、伐倒の方法・かかり木処理・集材機集材についての説明を行いました。

その後、現地へ移動し、岐阜森林管理署熊崎森林技術指導官からチェーンソーによる伐倒、ハーベスターによる枝払い・造材の見学や路網による作業システム等についての実地を学んでいただきました。



模型を使って説明する三村森林技術普及専門家



現地で説明する熊崎森林技術指導官



訓練生からは、安全な伐倒方法や、集材方法等について活発な質問や、大変有意義な訓練であったとの感想もありました。今後、全国の労働基準監督官として立派に活躍される一助になれば良いのではないかと思います。

### 行事・会議等の予定

◎岐阜県砂防治山地方連絡調整会議  
十二月五日 岐阜市内

◎国有林材供給調整検討委員会  
十二月六日 安曇野市

◎国有林モ二ター第2回現地見学  
十二月八日 熱田白鳥の歴史館



「飛騨森林管理署 町方森林事務所」

森林官 大坪 堅二

読者の皆さん「すくなっつー」ご存知ですか。

日本書紀に登場する伝説の偉人「両面宿禰」のご当地ゆるキャラです。もちろん高山市丹生川町民なんです。

「すくなっつー」プロフィール

顔が両面（正面はニコニコ・裏面は少し怒り顔）手足もそれぞれ4本ずつ。



性別：男子

住所：丹生川町日面

誕生日：古墳時代十一月三日

年齢千六百歳

趣味：丹生川の観光と農業PR

私が勤務する町方森林事務所は、高山市丹生川町（国有林面積：四、七〇〇ヘクタール）を管轄・担当しています。

その一つである乗鞍国有林は、長野県松本市に隣接する乗鞍剣ヶ峰三、〇二六メートルを頂きに、秘境五色ヶ原を懐にし、そ



豊平と鶴ヶ池（赤の三角屋根は署監視所）

の豊富な清流は高山市の重要な水源となり、飲料はもとより、地域の重要な産業である高冷地野菜栽培（トマト、ほうれん草）に欠かせないものとなっています。高山市内から望む雄大な乗鞍岳は、稜線が馬の背に鞍を置いた形に由来していると言われています。平湯峠からは日本一の高所を車で走行できる雲上のスカイラインがあり、気軽に高山帯を満喫体験できる場所です。終点の豊平、標高二七〇二メートル周辺には色とりどりの可憐な高山植物が咲き乱れ、その姿は登山者の目と心を魅了し続けています。



丹生川小学校遠足（左上端が森林官）

マイカーで乗り入れができた時代は、年間五十万人もの観光客が押し寄せ、踏み荒らしや盗掘等多くの問題が発生していました。このため昭和四十年代、高山営林署の頃より、職員による高山植物保護活動が始まり、環境保護活動を牽引してきました。現在は岐阜県環境パトロール員、地域ボランティア、飛騨森林管理署グリーン・サポート・スタッフの活動により素晴らしい景色、環境が守られ、年々高山植物も復元していると言われています。



金山国有林

かなやま  
おしきし  
金山、折敷地国有林では、森林整備事業を行っており、優良な国産材が恒久的に生産できるよう保育作業に努めています。また、昨今注目されている混交林施設について、多種多様な樹種構成を呈している当地でも取り組んでいこうと考えています。

最後に、この森林事務所は、二十年ほど前に新任の森林官として勤務した場所です。当時の職員の方や、懐かしい地域の皆さんと昼間の会談、夜の打合せと、積極的に意思疎通を図っておりま。今後も、森林官が林野庁の営業マンとなり地域振興に貢献できるよう努めていきたいと思っています。

北相木村は長野県の東、群馬県上野村との境に位置する人口八百人ほどの山村です。村の周囲は秩父山系や御座山に囲まれ、村の面積の約九割を山林が占め千曲川の支流である相木川が穏やかに流れています。



相木川の流れ

今回のご当地自慢は、日本のふるさと  
の原風景を感じることができると  
ご紹介いたします。

ご当地  
自慢

長野県南佐久郡北相木村

43

東信森林管理署



三滝 (大禅の滝 氷柱)

三滝山は村の北側に位置し、禅宗の「大禅僧都」により開山された信仰の山として広く知られています。その三滝山にある大禅の滝、小禅の滝、浅間の滝を

◆三滝山・三滝

登山口は、白岩登山口と山口登山口の二箇所ありますが、白岩口からの登山ルートの中で、五月下旬から六月中旬頃シャクナゲが見頃となり登山者を迎えてくれます。



紅葉と薄化粧の御座山

北相木村から山頂へ至る

御座山は北相木村と南相木村にまたがり、標高は二、一二二メートルあり、日本二百名山となっています。御座山の名の由来は、神様がおいでになる山ということから、天皇がお座りになる高御座の御座に由来すると言われています。

◆御座山



栃原岩陰遺跡

一九六五年に発見された縄文時代早期の遺跡で国の史跡となっています。岩陰



下新井地区のメグスリの木

村の中心からぶどう峠方面へ進むと下新井地区となりますが、その入り口の神社の境内には、メグスリの木としては珍しい巨木があり、長野県の天然記念物に指定されていて地区の皆さんにより大事に守られています。

◆メグスリの木 (下新井地区)

総称して三滝と呼んでいます。三滝の内、大禅の滝の大氷柱は有名で毎年二月には三滝氷祭りが盛大に開催されています。



長者の森ロッジ

長者の森は村の東側、相木側の上流に位置し、コテージ、ロッジをはじめとするキャンプ施設やテニスコート、マレットゴルフ場などのスポーツ施設や野外ステージ等からなる野外

◆長者の森

遺跡とは、張り出した岩盤を屋根代わりに利用したことを特徴とする先史人類の生活の痕跡ですが、この栃原遺跡からは十体以上の縄文時代早期の人骨が出土したことで知られています。出土した人骨から復元された「相木人」の復元模型などは北相木村考古博物館に展示されています。

活動施設です。ロッジやコテージ等は地元のカラマツ材を使用していることから、木の温もりを感じることのできる木造施設となっています。

○北相木村へのアクセス

- ・電車
- J R 小海線小海駅からバスで約三十分
- ・自動車

上信越道佐久インターから国道一四一号で約一時間十分、中央自動車道須玉インターから国道一四一号線で約一時間